科目ナンバリング	U-LAS04 20027 SJ46						
授業科目名 <英訳>	精神病理学・精神分析学講読演習 Readings on Psychopathology and Psychoanalysis			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 熊谷　哲哉		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	教育・心理・社会(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期	曜時限	月2	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

精神分析学及び精神病理学に関わる基本的な文献をドイツ語（および英語語）で読み、この分野の独特の思考法の基礎を吸収する。外国語で読むことにより、この分野の思想の歴史をより深くまで辿り直すとともに、新しい知見の意味を普遍的見地から正しく捉え、体得することを目指す。

[到達目標]

精神分析学及び精神病理学に対して、研究の対象として取り組む端緒を得る。

[授業計画と内容]

フロイト、ラカン、ドゥルーズ＝ガタリ、カネッティ、キットラーなど現代を代表する多くの思想家が参照し、言及したことで知られるダニエル・パウル・シュレーバーの『ある神経病者の回想録』（Denkwuerdigkeiten eines Nervenkranken）は、非常に興味深い内容の書物でありながら、いっぽうでそのテクスト自体が読まれることはあまりない。
この授業では、精神分析の思考を知る上できわめて重要なこのテクストを丹念に読み込むことで、シュレーバーが患った病とは何か、『回想録』には何が表現されているのかを知ることを目標とする。

『回想録』には複数の邦訳があるが、この授業ではドイツ語の原典、および英語やフランス語の翻訳を参照しながら、原文の表現に込められた著者の思考をじっくりと読みたい。

基本的に以下のプランに従って講義・講読を進める。ただし進みぐあい、関連する問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。

第1回　オリエンテーション 『回想録』のどの章を読むか決める
第2回～第14回　受講学生による訳文発表と教員によるコメント（学生は、各回ごとに自分の担当箇所の訳文を発表し、それを教員や他の学生とのディスカッションによって検討していきます）
第15回　フィードバック

[履修要件]

精神分析学、精神分析I、同II、精神病理学I、同II、行動病理学I、同II、などの、精神分析と精神病理学に関連ある科目を少なくとも一つ履修済みであること。英語だけでなく、ドイツ語またはフランス語のテクストを読む意欲があることがのぞましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（100%）による。授業における発表（50%）、発言（50%）により評価する。

精神病理学・精神分析学講読演習(2)へ続く↓↓↓

精神病理学・精神分析学講読演習(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
中島悠爾 『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社, 2003）ISBN:978-4560004920
熊谷哲哉 『言語と狂気　シュレーバーと世紀転換期ドイツ』（水声社、2014）ISBN:978-4801000377

[授業外学修（予習・復習）等]

指定されたテキスト（ドイツ語、あるいは英語、フランス語）をよく理解して、部分的に日本語訳を作ってみること。
なお、授業外学修には、いわゆる「予習・復習」だけでなく、授業のなかで学んだことを各自の自習や日常や課外活動のなかで応用・実践し、生きた知識にすることも含まれる。

[その他（オフィスアワー等）]

[実務経験のある教員による授業]

①分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容

③実務経験を活かした実践的な授業の内容

[主要授業科目（学部・学科名）]